

<今回>289回目 2021年1月8日(金)15時~18時 306号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p274、三「日本書紀」の証言 より

<前回>288回目(20-12-18)出席者 7名

資料(20-12-18-1)前回のまとめ(清水)

(20-12-18-2)将軍山古墳と馬具(榛葉)

(20-12-18-3)笠松文様と黄幢(高山)

A 報告 本日は2時からであるが、部屋での飲食は禁止になっているから、ゆっくりと反省会をする予定であったが、5時までで早く終了することになった。コロナ禍で、参加協力頂き有難うございました。高山さん下中村さん、ご養生専一に。

B資料 ー2) 榛葉氏より、さきたま古墳群の将軍山古墳から出土の武具、馬具が紹介された。先に高山氏が手書きで苦勞された旗竿金具(蛇行鉄器)も示されていた。高山氏より3角縁神獸鏡の笠松文様と難升米のもらった黄幢の関係に関連する資料が配られた。1949年北朝鮮黄海北道の安岳里3号墳の壁画に半円形の毛房を上下に3つ重ねた長い棒状のものがあり、節と考えられている。同時のこの古墳には被葬者を示す墨書銘があり、使持節の高官が葬むられていたという。使持節、都督諸軍事、平東將軍、護撫夷校尉、樂浪口、昌黎、玄菟、帶方太守、都郷侯(遼寧省から朝鮮に亡命した冬寿という人物ではないかと見られている。倭王武は使持節、都督、倭、新羅、任那、加羅、秦韓、慕韓、六国諸軍事・安東將軍・倭王に任命されている。

C 読書 p267 金の武断 から

- 1)「渡海破百濟〇〇〇羅以為臣民」の主語を高句麗と為す点では金説がもつとも正当であった。ただ分国論によっていたから碑文面で倭王の存在の過小評価に努めている。
- 2) 事実問題として倭国は正規軍でなく、海賊のような小規模であることを印象付けようとした。倭寇、倭賊の語は非正規軍の小規模なものに使われるものだけではないことを例示した。三国志時代に魏が正当な政府であり、蜀や呉の正規軍や大軍であっても寇や賊の用語を使用している例を示している。
- 3) 好太王の勲績は大々的に示したいが倭は過小評価したいという矛盾にさらされている。敵は正当性がないが強大である。
- 4) 倭の正体 5世紀の倭王は邪馬壹国の後身たる王朝、泰(太)和4年(369年)百濟王は倭王のため七支刀を作り、咸安2年(272年)に贈った。好太王(391から412年)長寿王(413から491年)の生きた年代から推定。
- 5) 倭の全史 倭王武の上表文。はるか遠き先祖から日本列島内の統一戦争、海外の征服戦争への歴史を述べた物、英雄時代(例えばヤマトタケルの活躍時代をさしている)の反映とみることが出来る。
- 6) 倭人登場の最初の文献は漢書地理志、「樂浪海中倭人有り分れて百余国を為す、歳時を以て来たり、献見すと云う。」金印をもらった委奴国王の時は100国くらい。女王国の時は30國、西晋の滅亡で大陸の支配構造が激変し、不安定化した。朝鮮半島の樂浪郡、帶方郡の空白を巡って、高句麗と倭が激突していった。

次回日程 2021-1-25日(月) 15時から18時 1503号室

-2-5(金) 15時から18時 602会議室